

福島県 南相馬市役所  
鹿島区 産業建設課 農林水産係  
末永 拓麻様から届いた福島の現状

#### 【はじめに】

今回の平成30年7月豪雨にて被災された皆様につきましては心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早いご再興をお祈りしております。

#### 福島の現状及び南相馬市の農業について

##### 【福島の現状について】

現在、福島原発の廃炉状況については、2051年をめどに核燃料を取り出し建物を解体させる工程を組んでいます。数百トンに及ぶ融解した核燃料の場所は一部しか判明しておらず、原子炉の冷却に使用された汚染水は、現在でも一日に150トンずつ増え続けており、敷地内に設置されたタンクに貯蔵されている量は100万トンを超えています。この汚染水の最終的な処理方法は決まっておらず、廃炉の実現可能性を危ぶむ声もあります。

福島県は原発の風評を払拭していく安心・安全のための様々なPR事業を推進しており、その事業の数は84にも上ります。これらの様々な方面からの活動によって、少しずつですが消費者の不安を解消し、風評被害の改善に繋がっていると感じます。

しかし、安全検査をクリアした農作物であったとしても、まだまだ福島県の農作物全体に懸念を抱いている方も多くみられるのも事実です。

福島の風評を完全に払拭するには長い時間を要すると考えており、アムダさんを通じた福島県の農作物購入の取組は風評被害払拭の大きな支援となると考えております。

##### 【南相馬市の農業について】

南相馬市は平成29年度、県・JA・市が連携し、各支援策を講じた結果、作付面積は平成28年度と比較し約400ha拡大となる約2,200haの水稲作付が行われました。それに加えて今年度は「生産数量の目安」が設定され、南相馬市は主食用米が1,000ha、非主食用米が1,500ha、計2,500haとなっております。

本来、震災前には南相馬市の農地は約7,500haあったことを考えると、今年の作付面積は震災後7年の時を経てようやく震災前の3分の1までに回復しました。

その一方で、H28年7月に避難解除になった南相馬市小高区では、H30年7月現在の居住率が震災前と比較しわずか9.76%程度であり、いまだ担い手不足や津波被害の復旧が進んでいない地域もまだまだ多くあります。

安心して食べていただけるおいしいお米を提供できるよう、県内全域で米の全量・全袋検査を行っておりますが、「福島のみ」というだけで敬遠される方がいるのもまた事実です。このような風評被害を1日でも早く払拭すべく農家のみなさんと一緒に頑張っております。

ぜひ皆様の温かいご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。